

## ＜研究ノート＞

# 福祉系大学生のキャリア意識に関する調査研究（第1報）

河西正博<sup>1)</sup> 田仲由佳<sup>1)</sup> 吉森恵<sup>1)</sup> 梅谷進康<sup>1)</sup> 中山忠彦<sup>1)</sup> 和田典子<sup>1)</sup>

## A study on career consciousness in welfare university students

Masahiro KAWANISHI<sup>1)</sup>, Yuka TANAKA<sup>1)</sup>, Megumi YOSHIMORI<sup>1)</sup>,  
Nobuyasu UMETANI<sup>1)</sup>, Tadahiko NAKAYAMA<sup>1)</sup>, Noriko WADA<sup>1)</sup>

This article discusses a pilot educational program for career development for first-year students in welfare university and reports on the results of a questionnaire survey administered to the students.

We conducted with 80 students a questionnaire survey on their career consciousness during the program's first "career practice" class.

The questionnaire items took into account a "career readiness standard," and the main items were as follows:

- 1) interest in seeking employment
- 2) degree of autonomy regarding the seeking of employment
- 3) future prospects and plans

On the basis of the results, we intend to examine effective career support methods to meet students' needs. The subjects will be administered the same questionnaire as the one from the first career practice class and we will compare the findings.

**Key words :** career consciousness, career education, career readiness

**キーワード:** キャリア意識、キャリア教育、キャリアレディネス

## 1. はじめに

近年、経済状況および産業構造の変化や雇用の多様化・流動化、様々な分野での国際競争の激化、少子高齢化の進行など、社会全体が大きく変化するなか、大学生の就職を巡る環境が一層厳しいものとなっている。

厚生労働省（2012）の「大学等卒業予定者就職内定状況等調査」<sup>1)</sup>によると、2012年3月卒業の大学生の就職率は93.6%となっており、前年に比べ2%ほど上昇しているが、

昨今の経済不況の影響を受け依然として低い割合となっている。また、大学を卒業してから3年以内の離職率が28.8%となっており<sup>2)</sup>、大学生の就業および定着への支援は喫緊の課題となっている。

このような状況の中、2011年度から大学および短期大学での教育課程に職業指導（キャリアガイダンス）を盛り込むことが義務化され、各大学ではカリキュラムや就職活動支援体制等の見直しが行われている。文部科学省は、これらのキャリア教育について、「望ま

1) 近畿医療福祉大学（Kinki Health Welfare University）〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

しい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育を実施する必要がある」<sup>3)</sup>と述べており、単なる就職支援ではなく、大学生の自己覚知の必要性や主体性の形成についても言及している。

以上のように、大学におけるキャリア教育の取り組みは緒についたばかりであるが、キャリア教育の評価や大学生のキャリア意識の検討が行われ始めている<sup>4) 5) 6) 7)</sup>。

森山(2007)<sup>4)</sup>が行ったキャリア教育の受講学生(1年生～3年生)を対象とした調査によると、職業に対する関心性(どのような職業が存在するのか、その職業に就くための方法の理解、就職に関する情報収集等)、自立性(仕事に積極的に取り組みたい、責任のある仕事をしたい等)については性別・学年を問わず高い得点が出ているが、計画性(どのような職業につきたいのか、希望職種に就くための準備等)については、最も低い得点となっており、関心の喚起や職業意識の高まりをいかにして具体的な就職活動や準備につなげていくのかが課題であると指摘している。また、1年生の各項目の得点の伸び率が全般的に上級生よりも高く、初年次のキャリア教育の有効性についても言及している。

そこで本研究は、上述の先行研究を参照し、福祉系大学におけるキャリア教育の取り組みを概説するとともに、キャリア意識に関する調査結果の報告を行うものとする。

## 2. 研究方法

### 2-1. 調査概要

K大学社会福祉学部1年次必修授業である、「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」を履修している全学生(80名)を対象にキャリア意識に関す

る質問紙調査を実施した。なお、2012年前期に開講した「キャリア演習Ⅰ」については下記の目標が設定されている。

- ①自分自身への理解を深めるために、客観的に自己分析をする。
- ②他者と円滑にコミュニケーションを図ることができる。
- ③自己PRができるようにする。

上記のように、キャリア教育やキャリア形成の基盤となる自己認識や他者とのコミュニケーション能力の向上を念頭に置き、学科ごとにさまざまな取り組みが行われている。以下にプログラムの一部を抜粋する。

- ・自己紹介、他己紹介(自己を客観的に把握する、他者への共感等)
- ・1週間の生活の振り返り(自己の内省)
- ・心理テストを用いた自己分析(自己認識、特性の把握等)
- ・レクリエーションやゲームをツールとしたグループワーク(リーダーシップ、協調性)

### 2-2. 調査対象・方法

2012年前期に開講した「キャリア演習Ⅰ」の初回授業時に、4クラス(80名)を対象に質問紙調査を実施した。

質問項目については森山(2007)<sup>4)</sup>が用いた、「職業キャリアレディネス尺度(CRS)」を参考に、簡易版のキャリアレディネス尺度(9項目)を作成し、キャリアに対しての関心性、自立(自律)性、計画性に関する意識調査を行うと同時に、新聞、テレビ、インターネット等、日常的にどのようなメディアで情報を得ているのかについても調査を実施した(詳細は文末資料を参照)。なお、本研究においては、前述のキャリア意識に関する結果について考察を行う。

### 3. 結果および考察

#### 3-1. 回答者属性

「キャリア演習Ⅰ」を履修する全1年生（80名）を対象に質問紙調査を実施し、76名（回収率：95%）から回答を得た。性別の回答者数をみると、男子46名（60.5%）、女子27名（35.5%）、不明3名（3.9%）となっており、男子学生の割合が高くなっている。また学科別にみると、生活医療福祉学科介護コース（以下、福祉学科介護コース）が22名、生活医療福祉学科生活医療福祉・保育コース（以下、福祉学科生活・保育コース）が11名、臨床福祉心理学科（以下、心理学科）が16名、健康スポーツコミュニケーション学科（以下、スポーツ学科）が27名となっている（表1）。

表1 性別・学科別回答者数

	男子	女子	不明	学科合計
介護	12	9	1	22
生活・保育	6	5	0	11
心理	8	8	0	16
スポーツ	20	5	2	27
総計	46	27	3	76

#### 3-2. キャリア意識について

回答結果は表2のとおりである。設問ごとに、非常に当てはまる（5点）、どちらかといえば当てはまる（4点）、どちらともいえない（3点）、あまり当てはまらない（2点）、まったく当てはまらない（1点）の回答を得点化し、設問ごとの平均値および学科別の平均値を算出した（表2）。なお、項目別得点の男女差については統計的な有意差が見られず、学科別の統計的な比較については、学科ごとの学生数が少人数であると同時にばらつきがあるため行わないこととした。

全体的な傾向をみると、自立性に関する得点が最も高く、計画性に関する得点が最も低い値となっている。自立性に関する項目では、「これからの人生は、自分で責任を持って生きていきたい。」という責任性が最も高い得点となっており（4.17）、学科別では福祉学科介護コース（4.41）と心理学科（4.44）が高得点となっている。続いて関心性に関する項目では、「今後の人生設計のための参考となる話は耳を傾けるようにしている。」

表2 回答結果

関心性	(1) 人生設計や生き方について、とても関心がある。	3.59
	福祉（介護）：3.45 福祉（生活・保育）：3.18 心理：4.13 スポーツ：3.55	
	(2) 今後の人生設計のための参考となる話は耳を傾けるようにしている	3.93
	福祉（介護）：4.18 福祉（生活・保育）：4.00 心理：4.06 スポーツ：3.65	
自立性	(3) 自分は何のために生きていくのか真剣に考えている。	3.41
	福祉（介護）：3.67 福祉（生活・保育）：2.91 心理：3.88 スポーツ：3.29	
	(4) 自分の人生は、自分で切り開いていきたい	4.04
	福祉（介護）：4.27 福祉（生活・保育）：4.18 心理：4.19 スポーツ：3.74	
計画性	(5) これからの人生は、自分で責任を持って生きていきたい。	4.17
	福祉（介護）：4.41 福祉（生活・保育）：3.73 心理：4.44 スポーツ：4.03	
	(6) 人生を充実させるためには、何事にも積極的にチャレンジしていきたい。	3.87
	福祉（介護）：4.05 福祉（生活・保育）：3.82 心理：4.13 スポーツ：3.77	
計画性	(7) 自分は将来どう生きていくのか具体的に計画を立てている。	3.30
	福祉（介護）：3.29 福祉（生活・保育）：3.36 心理：3.62 スポーツ：3.23	
	(8) どう生きていくか明確な目標を持っている。	3.39
	福祉（介護）：3.45 福祉（生活・保育）：3.55 心理：3.63 スポーツ：3.16	
計画性	(9) 目標を達成するために、すでに取り組んでいることがある。	3.21
	福祉（介護）：3.45 福祉（生活・保育）：3.27 心理：3.31 スポーツ：2.97	

という探索性が最も高い得点となっており(3.93)、学科別ではスポーツ学科の得点が若干低くなっているが、他コース・学科はほぼ同様の数値となっている。また、計画性に関する項目では、全体的に低い得点となっており、学科別では3項目ともスポーツ学科の得点が最も低くなっている。

全体の得点順位が自立性、関心性、計画性の順となっているのは、森山(2007,2008)<sup>4) 5)</sup>の調査結果と合致するものである。計画性の得点が低い値となっているのは、就職に向けての準備や計画策定といった具体的な将来設計に関する質問項目となっているため、1年生にとっては現実性を伴うものではなく、低い得点となったものと考えられる。また、関心性の「自分は何のために生きていくのか真剣に考えている。」という設問に関しても、一部計画性を含むものであり、同様の理由で低い得点になっているものと考えられる。

以上の調査結果を総合すると、今後のキャリア形成に関して、主体的に責任をもって取り組んでいきたいという意向をもっていると同時に、自分自身の人生設計に関して意識をしているが、将来に向けての具体的な取り組みや目標達成への準備はこれからであるということが示唆された。

#### 4. おわりに

本研究は、福祉系大学におけるキャリア教育の取り組みを概説するとともに、キャリア意識に関する調査結果の報告を行ったが、現段階では新入生のみの一事例となっており、統計的な分析を十分に行うことができず、全体的な傾向の指摘のみに留まってしまったことは検討課題の一つである。

今後は同様の調査を他学年に対しても実施することで、年次的なキャリア意識の変遷に

についても検討していきたいと考えている。また、本調査を、2012年後期に実施されている「キャリア演習Ⅱ」の終了時にも実施する予定となっており、授業受講前後の結果を比較することで、キャリア教育の実施効果と今後のプログラム展開の参考資料として活用していきたいと考えている。

#### 参考文献

- 1) 厚生労働省: 大学等卒業予定者就職内定状況等調査. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002a4ov.html>
- 2) 厚生労働省: 若者雇用関連データ. <http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/12.html>
- 3) 文部科学省: 今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/05010502/001.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/001.htm)
- 4) 森山廣美: 大学におけるキャリア教育—その必要性と効果測定の視座から—. 四天王寺国際仏教大学紀要, 44, 309-319, 2007
- 5) 森山廣美: 大学におけるキャリア教育の検証(序章). 四天王寺国際仏教大学紀要, 45, 579-590, 2008
- 6) 中森孝文・石田徹・只友景士・土山希美枝・阿部大輔: 龍谷大学政策学部における低年次生向けキャリア養成プログラム試行の効果と課題. 龍谷政策学論集, 1(2), 83-95, 2012
- 7) 小山内幸治: ノースアジア大学における経済学部初年次学生のキャリア意識—希望進路と進路決定要因—. 経済論集, 8・9, 19-26, 2010

